

# SAPPORO 教区 NEWS

第8号

2007年10月31日

発行：カトリック札幌司教区事務局広報部  
〒060-0031 札幌市中央区北1条東6丁目10

Tel. 011-241-2785 / ホームページ：http://www.csd.or.jp

## 2008年11月24日（月）に 長崎市でペトロ岐部と187殉教者列福式

### 列福式記者会見行う 会場は11月下旬に決定

日本カトリック中央協議会は、9月29日（土）午後3時、カトリック長崎大司教区大司教館で、「ペトロ岐部と187殉教者の列福式記者会見」を開いた。これは教皇庁国務省からの列福式に関する日程の通達を受けて行われたものである。会見には、発表者として溝部脩司教（列聖列福特別委員会委員長）、開催地責任者高見三明大司教（列福式実行委員会委員長）、立会人として前田万葉神父（中央協議会事務局長）、橋本勲神父（列福式実行委員会事務局長）、平林冬樹神父（列聖列福特別委員会秘書）、それに司会者として久志利津男神父（中央協議会広報部長）の6人が臨

んだ。当日の会場にはテレビ局4社、新聞・通信8社、カトリックの雑誌社2社の合計14社が集まった。

まず発表者の溝部脩司教が、今回の記者会見にいたるまでのいきさつを紹介した。前教皇ヨハネ・パウロ2世の来日の翌年、日本の司教団が日本人殉教者の列福運動を一致して進めていくことを決めてから25年の努力がようやく結実することを記者にたいへいに説明した。列福式の日程は2008年11月24日（月）で、列聖省長官が教皇大使として出席する。最後に溝部司教は、この列福式の意義を、40年

前の殉教者が現代に生きる私たちにどのようなメッセージを与えてくれるかを生き生きと示すことにあるとした。

続いて、開催地責任者である高見大司教が「列福式を準備するに当たって、カトリック教会内に限らず、できるだけ多くの方々にその意義を理解していただくよう努力していきたい。そして何よりも、殉教者が今も発信し続けているメッセージを生き方に反映させていくよう、信者一同とともに努めていきたい」とあいさつした。

### 第3回アジア巡礼所 会議が長崎で開催

10月15～17日から、パチカン巡礼部門枢機卿や駐日大使、アジアの担当司教、アジア各国の巡礼所責任者が約100名参加し、「巡礼所Ⅱそれは希望の場Ⅱ」というテーマで話し合いは進められた。

希望のうちに旅をする教会を体現しようというねらいが随所に現われて、アジア各国の巡礼所を結ぶ動きを始めるための実働組織を作る提案が採択されたことが今回の大きな実りの一つ。最終日の全体会議においては、フィリピン代表より、この会議の名において、長崎教会群の世界文化遺産への動きをサポートするメッセージを、ユネスコに送る動議が出され採択された。旅をしつつ神と出会い、異質な者同志が出会い、癒しと和解の実現を目指している長崎巡礼センターの動きにも関心の目が注がれた。



### = 殉教者を顧みて =

ペトロ岐部と187殉教者の列福に向けて10月7日（日）藤学園講堂を会場に行われた講演とミサで心を一つにして祈る。イエスス会司祭で、日本二十六聖人記念館館長のデルカ・レンゾ神父が「殉教者と私たちの信仰」と題した講話。その中で師は、26聖人たちは洗礼の時点での迫害を受けていなかった。しかし、ペトロ岐部と187殉教者は、洗礼の時点で既に迫害を受けていた。そのよ

### 札幌地区使徒職大会で 「殉教者を想い、ともに祈る」

うな迫害を受けていた状況でありながら、自ら洗礼を受け、そして子どもたちにも洗礼を授けていった事は非常に大きな意味を持っている。今回列福を受ける彼らは、キリスト教を本心に信じていた。キリスト教の根底には人を許す心がある。信仰は心の問題である。私たちは、信仰に生きる素晴らしさを、殉教した彼らから学び、ミサを通してキリストの道突き進むことが出来るようにしたいと話された。

講演後、地主敏夫司教の司式でミサが行われ、列福式に向けて、キリスト者として殉教の心を伝える気持ちを持ち続けることの大切さ、殉教者に倣い歩み続ける決意を誓い共に祈った。

### 札幌が再宣教開始の地



一五四九年ザビエルがもたらしたキリスト教伝来によってフランシスコ会が日本を入股。そして二人の宣教師が日本(札幌)で再宣教を開始してから百年、日本管区が発足してから三十年を記念して10月6日(土)午前十一時から北11条教会にてミサを行う。

来賓に、札幌教区長の地主敏夫司教、フランシスコ会フルダ管区から管区長のハドリアーノ神父や、元管区長のシークフリード神父とシルベスター神父ら6名、ベトナム管区副管区長のロン神父、カナダ管区からは管区長代理のカシアン神父を迎え、札幌地区の司祭やフランシスコ会司祭およそ50名が参列し、フランシスコ会日本管区長の湯沢民夫神父の司式で荘厳の内にも和やかな雰囲気の中でミサが行われた。当日は、修道者・信徒が300名余りが参加し共に祝った。ミサ後の祝賀会ではホール溢れる人々が旧交を深めた。

### フランシスコ会日本再宣教百周年を祝う

11月14日(水)午後6時 於:北一条教会

札幌教区で日韓司教交流会が開催されるのは32年に1回。(日韓の各16教区で交互に開催)  
この機会に、共に集い、心をつ一つにして、日韓の平和や世界の平和、日韓の交流の輪(和)が広がるように祈りましょう。

|| 一昨年(2017年)の那覇教区で行われた日韓司教交流会ミサの様子 ||



### 祈ろう！日韓司教交流会ミサに集い心をつ一つに

池長 潤 大阪大司教

は、教区の阪神・淡路大震災の復興計画が完了したことにもない、新生資金(新生拠出金)に関する最終報告を出され、日本の全教区の人々に対して「大阪教区における阪神・淡路大震災よりの復興計画は、2007年5月26日に行われたたかとり教会の献堂式をもちまして全て完了いたしました。震災で家族を失った方々の苦しみが癒えることがなく、家を建てても、そのためにローンを抱えた人々にとっては終わったとは言えないと思いますが、震災後10年を一つの区切りとし

新生！ — 住吉教会・神戸中央教会・たかとり教会 —

### 大阪大司教区12年半の復興計画完了に感謝！

大阪教区 新生資金収支明細			
取入	金額	支出	金額
種別		種別	
大阪教区小教区拠出金	1,167,951,613	小教区(緊急補修費)	272,407,604
カトリック中央協議会	90,000,000	明石	3,479,134
他教区	111,433,797	垂水	4,972,840
札幌教区	465,811	兵庫	9,958,495
新潟教区	128,900	三田	15,670,919
浦和教区	7,590,000	灘(旧)	11,866,432
東京教区	75,663,668	下山手(旧)	29,742,389
横浜教区	2,312,076	芦屋	53,606,990
名古屋教区	13,227,824	甲子園	9,699,300
京都教区	7,080,000	夙川	98,777,000
広島教区	1,626,265	千里ニュータウン	3,090,000
福岡教区	953,628	高槻	1,957,000
長崎教区	2,385,625	豊中	1,618,600
諸団体	203,364,174	北野	5,954,000
宣教会・修道会	104,716,242	姫里	358,234
教育施設	1,862,179	福島	77,250
幼稚園	311,862	北浜(旧)	3,634,870
その他の施設	35,225,017	三国	4,919,000
海外教区・団体・個人	3,546,955	平野	727,180
国内個人・団体	57,701,919	仁川	12,297,971
大阪教区司祭	59,185,531	カテドラル	166,367,770
		大司教館	288,953,403
		新築教会(緊急補修費含)	1,812,979,106
		神戸中央	803,474,976
		住吉	582,784,250
		たかとり	426,719,880
		その他	878,997
小計	1,631,935,115	新生要綱委員会	6,629,678
旧司教館売却金より充当	916,281,443	(「新生の明日を求めて」出版費用)	
合計	2,548,216,558	合計	2,548,216,558

て、神戸地区三教会の新築を始めました。教会の再建は地域の復興がなされた後にしようと言ってきましたので、震災から12年半が経過してしまいました。

思い起こせば、司教様をはじめ貴教区の方々に大変お世話になりました。私どもの感謝の意を、ご心配くださった全ての方々にお伝えしたいと思えます。再建に使われた教区新生資金の収支をご報告し、ここに改めて深くお礼申し上げます。感謝の言葉を述べられた。



一新になったカトリック住吉教会一

## ともに支えあい、共有しよう！

### 世界難民移住移動者の日に集う人々！

9月23日(日)の難民移住移動者の日に、カトリック北一条教会で、地主敏夫司教の司式で、国際デーのインターナショナルミサを捧げた。

札幌教区には、2005年末の外国人登録者数で、118国の1万4983人〔道央圏 12630人、道南圏 1232人、道北圏 1753人、オホーツク圏 1739人、道東圏 1976人〕の人たちが生活している。母国と日本の習慣や考え方の違いに戸惑っていることも多い。言葉の違いで理解できないこともあって悩んでいることもある。外国人の人たちが抱える諸問題に、「教会」とし

#### フィリピン信徒 宣教師の活動報 告①

ネットワーク作り、ドアをノックし続ける二人——  
メリンダとエディサの二人のフィリピン信徒宣教師が札幌教区で活動を始めて、凡そ半年がたった。  
まず、札幌をベースに、函館、千歳、旭川、斜里、網走と訪問し、そこで生活するフィリピン人に会っ

て、話を聞き、北海道に住するフィリピン人のネットワークを築くことから始めた。しかし、それは簡単なことではなかった。  
まず、日本では誰もが忙しい生活を送っている。話をした人から新しい人の連絡先を教えてもらうために、まずは間に入った人がその人に了解をもらうことに予想以上に時間が費やされ、信徒宣教師が電話で話ができるまでに更に時間が

費やされた。  
やっと、連絡がつき訪問しても、喜ばれることもあるが、受け入れる心構えが出来ていないと言う場合も多々あった。同国人同士の間、友人関係を築くということ、は、簡単なことと思っていたので、何故と言う疑問が生まれた。しかし、これが、解決していかねなければならぬ現実の課題であること認識せざるを得ない。  
北海道に滞在するフィリ

ピン人、その中の多くの人は、フィリピン人や日本人のプロモーターの犠牲になり、搾取されている実態がある。また、日本で働く同国のフィリピン人から騙された経験をもつ人もいる。これらの経験は、彼らの心を閉ざし、彼ら自身に壁を作らせ、孤立させてしまっている。そして、仕事場と家だけという彼らの小さい世界に閉じこもっている彼らに接触することは簡

単なことではない。しかし、二人の最初のステップはすでに踏み出されている。二人の願いは、同国の彼らからの信頼を勝ち得て、フィリピン人のコミュニティを築く手助けをすることに、よって、より多くのフィリピン人が教会の信仰を取り戻すことである。  
教会としてなさなければならぬことをするために、信徒宣教師はこれから、ドアをノックし続ける。

#### 第8回国際デー・ミサ カテドラルに集い祈る！

—小さな一歩がとても大切なこと—



て対処していかねなければならぬことが多くあるが、地道に一つずつ解決していくことが重要であろう。  
地主司教は、ミサの冒頭の挨拶で、「そもそも『教会』は、発生時点から既にインターナショナルなもの

でありました。言葉の違いはあっても、ミサは国籍を超えた万国共通のものであります。このミサを出発点として、教会本来の姿を見つめなおしましょう。」と述べられた。  
また、ミサの説教の中で、

「ミサ後、晴天の下で、語りを中心とした食卓を囲み、有意義な時間を過ごすことが出来た。このような時間を共有することが出来たことに、  
神に感謝。」

準備委員会から——  
今年には歌・踊り・演奏などのステージパフォーマンスがなく、また各国の料理も例年に比べ少なかったのですが、予想を超える約250人の参加者があり、いなり寿司などは途中で売切れ、追加買い出しに走るシーンもありました。  
外国人の参加者も10ヶ国の人々が集まり、さわやかな秋晴れのもと、料理を食べながら和気あいあいと会話を楽しんだり、数人の女性がBGMの軽快な曲に合わせて自発的にダンスを踊るシーンもありました。  
パーティーは、北一条教会の中庭で行なわれましたが、参加人数にはちょうど

よい広さで、食事をしながら会話を楽しむ場所としてはとてもよかつたのではないかと思います。  
今回は、規模が小さいせいもあって、準備もそれほど大掛かりにする必要がなかったことから前日のボランティアも7、8名程度でしたが、当日は各教区から多くのボランティアの皆さんが会場設営および後片付けにご協力頂け、作業がことのほかスムーズに進みました。  
いろいろ準備段階から当日の作業をしていただいた皆さんに対しまして、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

### 第13回ネットワークミーティングin名古屋に参加

岡澤 まどか

## 青少年の活動

9月15日～17日に「第13回ネットワークミーティング」(NWMI)in名古屋(NWM)に参加しました。全国から約160人が集まり、全国各地の青年たちと交流を持つことができて、とても楽しく、充実した時を過ごすことができました。



札幌から約6時間、飛行機と電車を乗り継いで、岐

阜県多治見市の神言修道院に到着しました。着いてからは約12人ずつ12のグループに分かれて修道院の庭やブドウ畑内を歩き回り、クイズを解いてキーワード探しをしました。気温30度の猛暑の中、皆で協力してクイズのある場所を探したり、証拠写真をとったりし

て、グループ内の仲が深まったように思います。その後、「つながり」をテーマにろうそく作りをしました。私は、7班だったので7から7色の虹を連想し、虹の絵を描きました。他には、朝から夜までの一日のつながりを連想して「太陽と星と海」を描いていた人もいました。夜は、そのろうそくを持ち、聖堂でテゼの祈りをしました。

夜は交流会で、9月生まれの参加者をお祝いしたり、名古屋スタッフが女装や覆面の出し物をしたりして参加者を楽しませてくれました。深夜まで、それぞれがいろんな人と話しをし盛り上がりっていました。

次の日の午前中はグループごとにそれぞれが、「自分にとっての信仰の实り」について分かち合いをしました。そして、それぞれの「自分にとっての信仰の实り」を一言にして紙に書いて丸く切り、模造紙に貼ってぶどうの实の形にするというのをしました。私は、もつと信仰に対して自信が持てるように、という願いも込めて「自信」という言葉を書きました。

午後は締めくくりとしてミサにあずかりました。歌は、この日のために結成されたバンドが弾き、テンポのよい曲ばかりで「このよ

うな形のミサもあるんだ」と驚きました。閉祭の歌では、NWMのために作られたテーマ曲「ぶどうの木」をみんなで歌いました。158人全員で歌うと迫力があり、とても感動しました。

このネットワークミーティングを通して皆が信仰によってつながっていて、集まってきたことを感じました。初対面でもすぐに打ち解けられたり、同い年とい

## 各地区の活動

# 教区内の活動報告

### 釧路地区信徒大会を終えて

今年度の信徒大会は、九月二日(日)釧路教会で開催。私たち釧路地区の信徒は、教会のすすめを受け「ベト口岐部と一八七殉教者」の列福が

一日も早く成りますようにと祈り続けてきましたが、いよいよ列福が現実のものとなりつつあることから、当初からこの列福調査に関わってこられた殉教者列福調査特別委員会委員長の溝部脩司教様(高松教区)に、釧路市内の新川・釧路教会

り、「信仰の实り」について深く考えることができたことが、とても大きかったと思います。テーマである「ぶどうの木」出合い・つながり・実り」を2日間通して感じる事ができました。名古屋スタッフに、そして全国にできたこの出会いに、一人ひとりが信仰によって集まったそのつながりに、そしてこのような機会を与えて下さった神様に感謝の気持ちが残りました。

合同黙想会でのご指導と講話を、とりわけ金曜日から三日間にわたる黙想会の最終日は「地区信徒大会」として、より多くの信徒を迎えて列福を祈願するミサと殉教者についての講話をとお願ひしたところ、快くお引き受けいただきました。

六月一日には教皇ベネデクト十六世の裁可により「ベト口岐部と一八七殉教者」の列福が決定しましたので、当日は列福決定を記念するミサと講話になり、二百名を超える参加者が喜びをわかちあい、また貴重な講話を拝聴して実り多い大会となりました。



溝部司教様は、百八十八人の殉教者の中から武士の原主水、妻であり母である小笠原みや、そして司祭の結城了雪の三人を選び、その生涯を、キリシタン時代の厳しい状況と、現代日本の嘆かわしい様相、とくにモラル崩壊の状況とを対比してお話くださいました。

私たちは、殉教者の高潔な精神を知るとともに、今の世の見るに堪えない有様をあらためて目の前に突きつけられた思いでした。激しい迫害と厳しい拷問に耐え、「決して転びもうさず候」といって死にゆき、この世の一切を捨てて天の国を目指した殉教者の「神と一致した生き方を貫いた」姿は、まばゆい輝きを放ちつつ、現代の私たちを目覚めさせ、一人ひとりが魂の救いを求めて生きるとの励みとなり、力強い励ましと慰めのともしびとなることでしょう。

### 第11回 苫小牧地区信徒大会が開催

10月21日(日)室蘭市内のホテルで行われ、5名の司祭と130名を超える信徒が参加。



午前中は開会式に続いて、大会開催を感謝するミサ。午後は、「カリタス家庭支援センターの活動に学ぼう」をテーマに、堤邑江同センター代表の講演。堤代表は、ソーシャルワーカー



# 教区・地区 行事予定表

2007年11月～2008年2月

## ◆教 区

- 11月4日(日)～5日(月) 社会福祉セミナー (北一条教会)
- 11月6日(火)～7日(水) カリタスジャパン全国担当者会議 (ベネディクトハウス)
- 11月13日(火)～15日(木) 第13回日韓司教交流会
  - 14日(水) 午後6時 日韓司教歓迎ミサ (北一条教会)
  - 26日(月)～27日(火) 教区司祭月例会 (花川マリア院)
- 1月28日(月)～29日(火) 教区司祭月例会 (花川マリア院)
- 2月25日(月)～26日(火) 教区司祭月例会 (花川マリア院)

## ◆札幌地区

- 11月7日(水) 地区宣司評事務局会議 (ベネディクトハウス)
- 23日(金) 一日研修会兼評議会 (北11条教会)
- 24日(土) 要理講座9
- 12月5日(水) 地区宣司評事務局会議 (ベネディクトハウス)
- 1月9日(水) 地区宣司評事務局会議 (ベネディクトハウス)
- 26日(土) 要理講座10
- 2月6日(水) 地区宣司評事務局会議 (ベネディクトハウス)
- 23日(土) 要理講座11
- 24日(日) 地区宣司評第5回評議会 (月寒教会)

## ◆函館地区

- 11月18日(日) 聖書週間地区合同ミサ (宮前町教会)
- 12月10日(月)～12日(水) 待降節共同回心式 (宮前町・湯川・元町教会)
- 21日(金) クリスマスの夕べ (宮前町教会)
- 2月11日 頃 信教の自由を守る函館キリスト者集会

## ◆苫小牧地区

- 11月22日(木) キリスト教船員奉仕会役員会 (シーフェアラーズセンター)

## ◆旭川地区

- 11月7日(水)～8日(木) 旭川地区司祭会議 (カトリックセンター)
- 25日(日) 旭川市内合同ミサ (旭川5条教会)
- 12月5日(水)～6日(木) 旭川地区司祭会議 (カトリックセンター)
- 8日(土)～10日(月) 稚内・枝幸巡回
- 20日(木)～1月3日(木) 稚内・枝幸巡回
- 23日(日) 旭川市内合同ミサ (旭川5条教会)
- 24日(月) 旭川市内合同ミサ (旭川5条・大町教会)
- 25日(火) 旭川市内合同ミサ (旭川5条教会)
- 30日(日) 旭川市内合同ミサ (旭川5条教会)
- 1月1日(火) 旭川市内合同ミサ (旭川5条教会)
- 7日(月)～8日(火) 旭川地区侍者会 (カトリックセンター)
- 10日(木)～17日(木) 稚内・枝幸巡回
- 26日(土)～28日(月) 稚内・枝幸巡回
- 27日(日) 旭川市内合同ミサ (旭川5条教会)
- 2月6日(水)～13日(水) 稚内・枝幸巡回
- 13日(水)～14日(木) 旭川地区司祭会議 (カトリックセンター)
- 23日(土)～25日(月) 稚内・枝幸巡回
- 24日(日) 旭川市内合同ミサ (旭川5条教会)

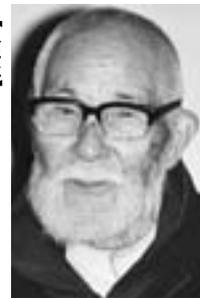
## ◆北見地区

- 11月17日(土) インターナショナル ファミリー デー
- 12月 待降節—クリスマス 地区クリスマス献金
- 2月 地区宣教司牧委員会

## ■ 訃 報

※ 安息をお祈り下さい。

◆トラピスト修道院 セバスチアノ今村喜登修道士



### 【略歴】

1899年 福岡に生まれる  
 1926年 トラピスト修道院入会  
 1929年 初誓願宣立  
 2004年 誓願宣立75周年  
 2007年10月1日 帰天(享年107歳11ヶ月、修道生活81年)

1930年、60年 牛舎に勤務。農業指導員の実績を生かし、トラピストの牛を10頭から80頭まで増やし、札幌で行われた乳牛コンテストで銀賞受賞(1942年)。60歳の時に脳溢血で倒れたが、服薬と同時に持ち前の精神力で、リハビリに励みんだ。65歳で立ち直り、バスター工場に勤務(15年間勤務)。80歳の時、受付係となり100歳まで職責を果たし多くの人に親しまれた。「良く祈る人は2倍働くと」言われるとおりの修道士で、知識と徳で修道士たちの良き模範であった。

## ■ 教 区 の 風

福音的視点で doing と being を考えてみよう

ある教会関係の記事に、「教会に足を運ぶ者は、必ずしも心と生活に余裕のある者とは限らない。心身ともに疲れきつた身体を教会に運ぶ者、職がなく生きる希望を見出せずにいる者など様々である。そんな人々は、自分の重荷を背負うことで精一杯で、教会の様々な立派な掛け声や呼びかけに応える余裕はない。そんな人々に対しては、何かを求めることよりも、そのありのままを包み込もうとすることの方が大切である。・・・立派な doing より、胸を叩くだけの being の方が、神の前では尊い。教会が大事にすべきことは福音的視点である。」と述べ具体例が記されていた。

この記事を読んでいて、私もある人から、病気で苦しんでいて心の平安を求めて、やっとの思いで教会のミサに足を運んでいる時に、そっとしておいてほしいのに、親切心からは分かっているが、様々な声をかけられ、逆に教会から足が遠のいてしまった人がいると聞いたことを思い出した。

また、ミサ後に教会や福祉活動の一環として、素晴らしいことへの働き掛けではあるが、自分はやっているから他の人たちがやるべきことが当然と言うような感じの呼びかけを目にする事がある。さらには、職を失いこれからの生活をどのようにしていったら良いのか悩みながら、平日の人のいない時間帯に、教会にお祈りにいつている人の話を聞いたこともある。

確かに、積極的に活動することが可能な人にとっても素晴らしい働き掛けとなるだろう。しかし、その余裕がない人々にとっては、教会に足を運びミサに与り、ミサを通して神様のみこころを受けとめ、キリストの愛に包まれて自分が存在することの意義や、福音的安らぎを見つけていることが大切なことであろう。そして、神様の前では、「キリストと共にいる」そのことを実感することが尊いことなのではないだろうか。

### ■ 編集後記

早いもので、今年も11月になろうとしていきます。12月には日本司教団がアドリミナで5年に一回報告にバチカンを訪れます。わたしたちは、慌しい年末とならないように、主のご降誕を迎える準備ができますように、殉教者に倣い日々生活したいものです。